



<N0172>

コナラ・クヌギ林（小檜・栲）

コナラ・クヌギと言えば、雑木林（ぞうきばやし）を代表する落葉広葉樹である。雑木林と言えば武蔵野が有名でその風景がしばしば詩歌や小説の舞台になってきている。現代版では「トトロの森」が代名詞のようにになっている。

雑木林は長い間にわたって人の手が加え続けられた結果出来上がった林で「二次林」とも言う。家庭用燃料であった薪や木炭の生産のために根元から切り倒すと、翌春に切り株からひこ生えが伸び、15年ほどすると元の雑木林に戻る。このサイクルで林は若返り豊かな自然を維持するとともに、日本の里山の原風景となっていたのだ。写真は当時の名残の株立ちしたコナラ林である。燃料がガスや石油にとってかわった時期を境に燃料供給地としての役割は終わり、スギ・ヒノキの植林地に変わった林も多い。

ヒメノキシノブ (姫軒忍)

<N0173>

ヒメノキシノブのヒメは「姫」の意味で、優しい女性に似た例えとして植物の名前に用いられている。本種はノキシノブより小さく優美な姿をしていることから名付けられたのであろう。

ノキシノブはというと、民家の古ぼけた軒先や樹木の幹、石垣などに着生していて、乾燥時や寒さに耐え忍んでいるという意味だ。どちらも地味で目立たない



植物だが堅実に生きている姿は日本的風情がある。

本種は自然度の高い林内などの太い幹に着生しているのを見かけるが、数が少なく出会えたら幸運と思えるのだ。写真はコケ類とともにヤマザクラの幹に生えるヒメノキシノブである。ウラボシ科の常緑草本。